

令和 7 年度 学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	生徒の進路希望の実現に向け、生徒・教職員が一体となって基礎学力の向上を図るとともに、規範意識の醸成に努め、地域と協力しながら、一層のキャリア教育の推進を図る。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	卒業までに育む資質・能力 ①自ら学び、深く考える授業を通じて、真理を追究し、関心のある学問分野や職業分野を探究してゆく力と姿勢を育成する。 ②さまざまな人々と対面し、対話や協働を積み重ね、目的の達成に向けた的確なコミュニケーションと意思疎通をはかる力を育成する。 ③地域の文化と産業について学び、自らと社会との繋がりを認識し、周囲と協調しながら自己実現を目指す視点と行動力を育成する。 ④社会に貢献する活動においてその実感を得る機会を創り、社会に対して積極的に関わる姿勢と、自ら進んで貢献する力を育成する。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	上記の資質・能力を育成するため、行う教育活動 ①自己理解と能力伸長のために、主体的・協働的に取り組み探究する課題を設定し、深い学びにつながる授業を展開する。 ②地域を支える産業や人々との関わりや活動を通じて地域への関心を喚起し、授業で得た成果や知識を積極的に活かす学習活動を行う。 ③社会の現状に関心を持ち、広い見方や考え方をもとに解決策を考え具体的に行動する、ボランティア等の活動に取り組む。 ④地域及び外部機関と連携し、地域のリソースを最大限に活用した「総合的な探究の時間」の中で、人間的な成長を図る。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	求める生徒像 ①将来を見据え、自身の理想の姿に到達するための学びと活動を、主体的に希求する生徒 ②学習や経験で得た力をもとに、課題を見いだし、解決のために分析・思考・行動する生徒 ③それぞれが責任と役割を果たすとともに、互いを認め合い、協働することができる生徒 ④地域活動に積極的に参加して諸課題に向き合い、地域に貢献する意欲がある生徒	
昨年度の成果と課題	令和7年度の重点目標	具体的目標
成果 ①丁寧できめ細やかな指導を行い、個々別々の生徒の基礎学力に応じた指導により、学力向上がみられた。 ②ジョブコーディネーターと積極的に連携し、進路指導とキャリア教育の充実を図ることで、進路目標の達成率100%を実現した。 ③地域と連携したキャリア教育、地域貢献活動、ボランティア活動の充実により、生徒のコミュニケーションスキルやソーシャルスキルが向上し、地域の期待に応えることができた。 課題 ①PDCAサイクルを確実に実践した基礎学力の定着 ②特別支援を必要とする生徒の支援体制の一層の充実 ③SNSについての指導の徹底とリテラシーの涵養 ④出席率の向上(96%台)	1 学習指導及び進路指導の充実	ア 基礎学力の向上 イ ICTの授業改善と評価の工夫 ウ 個に応じた指導の充実 エ 課題探究型のキャリア教育に基づく進路指導の推進 オ 情報提供と補習・模試等の機会の活用 カ コミュニケーションスキル等を向上させるための取組強化
	2 生徒指導の充実	ア 基本的生活習慣の確立 イ 生徒・保護者への情報発信と意識啓発 ウ 出身中学校との連携 エ 交通安全指導の充実 オ いじめ・体罰のない学校づくり カ 教育相談・特別支援教育体制の強化 キ 生徒会活動の積極的展開 ク 校内の清掃美化・環境整備 ケ 非常事態への適切な対応
	3 地域連携と道徳教育の推進	ア 新潟市南区及び外部機関等と連携した取組の一層の推進 イ ボランティア活動への生徒一人一取組の継続・推進 ウ 地域の理解と連携を企図した活動への積極的な参画
	4 さらなるキャリア教育の推進	ア 総合的な探究の時間を活用したキャリア形成 イ 地域の人材を活用した対話的な学びの実践 ウ 地域の企業・人材を活用した地域理解と地域発展への学びの深化

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
学習指導 及び 進路指導 の充実	基礎学力の向上	「学びの基礎診断」やICTを活用し「学び直し」の機会を充実させ、P D C Aサイクルを活用した基礎学力の確実な定着を図る。	B	B
		課題や小テスト等を活用し、基礎学力の充実と定着を図る。	A	
	授業改善と評価の工夫	各教科でICTを活用するとともに、「主体的、対話的で深い学び」を目指した授業への改善を図る。	B	B
		学習指導要領の確実な実施に向け、校内研修体制の充実を図り、教育課程の再確認と改善点を見だし、特色ある教育活動の実現を目指す。	A	
		評価の改善を図るため、各教科において定期的な見直しをする。	B	
	個に応じた指導の充実	各教科において、成績不振者への個別指導を強化する。	A	A
		「個に応じた指導」を充実させ、得意科目を伸ばし、苦手科目を克服するよう指導する。	A	
	課題探究型のキャリア教育に基づく進路指導の推進	地域と連携したキャリア教育(企業見学、校内外企業説明会、等)を充実させ、生徒の進路意識の一層の向上を図る。	A	A
		地元企業や大学等から講師を招いての講話・体験学習を充実させ、生徒個々の進路意識を高め、学問・仕事への興味・関心を持てるようにする。	A	
	情報提供と補習・模試等の機会の活用	「進路の手引き」を発刊するとともに、定期的に進路便りを発刊するなどし、生徒への情報提供と、進路意識の向上を図っていく。	B	B
		生徒の進路希望に応じて、模擬試験等を実施するとともに、小論文指導や面接指導などの個別指導を充実させる。	B	
生徒指導 の充実	基本的生活習慣の確立	通年で頭髮・服装検査を行い、高校生としてふさわしい身だしなみを維持する。	B	B
		各学期始まりに朝の登校指導を実施し、挨拶・マナーの向上を指導する。	A	
	生徒・保護者への情報発信と意識啓発	生徒指導通信を学期毎に発行し、HPを利用し家庭との連携を深める。	A	A
		家庭と連携し、情報機器(PC、携帯電話・スマートフォン等)の利用についてのマナー向上を図る。	A	
	出身中学校との連携	中学校訪問を実施して、支援シートを活用し、入学生への理解を深め、個に応じたきめ細かな支援体制の充実を図る。	B	B
	交通安全指導の充実	交通安全講話、バイク実技講習、交通安全街頭指導、自転車整備点検を実施し、交通安全意識の向上を図るとともに、命の大切さを学習する。	A	
	いじめ・体罰のない学校づくり	いじめ対策推進教員を中心に、いじめの確実な認知、いじめ対策委員会による組織的ないじめ対応、及び未然防止を図る。教職員は生徒情報の共有化を図るとともに、いじめ対策推進教員への確実な報告を徹底する。	A	A
		いじめ・体罰アンケート調査を定期的実施して、実態把握と重大事態の未然防止に努めるとともに、いじめや体罰を許さない校内環境を維持する。	A	
		いじめ防止対策基本方針の点検を行い、常に自校のいじめ対策の在り方について検証する。	A	
		情報モラル講演会や日頃の指導等により、正しい携帯電話等の使い方、特にSNS等の利用の在り方についての指導を徹底し、トラブルの未然防止に努める。	B	
	教育相談・特別支援教育体制の強化	生徒の教育相談を毎学期に実施し、生徒理解の充実と課題等への早期対応を図る。個別の支援を必要とする生徒への指導も一層充実させる。	A	A
		外部機関と連携した指導体制づくりを推進し、特別支援教育の教職員研修を行うなど、職員のソーシャルスキル指導力の向上を図る。	A	
		外部専門機関と連携した指導体制を確立し、個別の支援計画を作成するなど支援の強化を図る。	A	
	生徒会活動の活性化	体育祭、文化祭等の学校行事等において、地域と連携した活動を企画し実践するなど、生徒会活動を一層充実させる。	B	B
		部活動を奨励し、部活動加入率を50%以上とする。	C	
		地域ボランティア活動や、行事へ積極的に参加し、地域との交流を深める。	A	
	校内の清掃美化・環境整備	通常清掃、大清掃を徹底し、手入れの行き届いた清潔・快適な学習環境を常に維持する。	A	A
	非常事態への適切な対応	防災訓練(地域との連携)の推進を図る。 心肺蘇生・AED講習会の実施等により、安全と生命尊重の精神を養う。 感染症対策の指導を行う。	A	
	外部機関等と連携した取組の推進	地域コーディネーターを活用し、南区役所、にいがた南区創生会議等の外部機関と連携した新たな取組を実施する。また、生徒が地域と協働する取り組みについて助言・推進する。	B	B

地域連携 と道徳教育の推進	地域活動への積極的な参画の推進	地域行事や地域連携を軸に行事等に参加することによって、自己有用感を醸成する。「しろみな塾」に参加する生徒を募り、その生徒たちが地域の方々との対話から、地域課題を発見し解決するように導く。	B	B	B
	コミュニケーションスキル、ソーシャルスキル向上のための取組強化	「総合的な探究の時間」等を通して、ソーシャルスキルトレーニング等を充実させ、発達段階相応の対人スキルを身につけさせる。	B	B	
		各種ボランティア活動において、異世代交流を進めるとともに、コミュニケーション能力の向上を図る。成果（ボランティア活動等）発表会等を実施し、発表能力・情報発信力を育成する。	B		
さらなる キャリア教育の推進	総合的な探究の時間を活用したキャリア形成	地域と連携・協働することで、地域の課題を解決する力の伸長を図る。	A	B	B
		地域の課題を解決するための探究活動を行い、その成果を報告や課題研究にまとめて発信する。	B		
		広報紙等を発行し、中学校訪問等をとおして、保護者・地域及び地元中学校に対する積極的な広報活動を展開する。	B		
	地域の人材を活用した対話的な学びの実践	保護者や学校周辺の地域住民の方に学校行事に参加してもらえるよう、地域に働きかけ、地域と協働する活動を展開する。	B		
		「まちづくり連携事業」を活用した地域コーディネーターとの連携を通して、生徒が地域に出て社会貢献活動や交流活動を行い、資質向上を図る。	A		
	体験学習による学びの深化	オンリーワンスクールの取組を推進し、地域との連携を強化する。異世代との交流をとおして、コミュニケーション能力を育成し、豊かな人間性の形成を目指す。	B	B	B
成果	学習面では、ICT活用や個別指導により基礎学力の定着を図り、進路では、ジョブコーディネーターとの連携により進路達成率 100%を実現した。南区との地域連携におけるボランティア活動や「総合的な探究の時間」を通じ、生徒のコミュニケーションスキルやソーシャルスキルも継続的に向上している。また、交通安全指導やいじめ未然防止の取り組み（アンケートや組織的対応）により、安心・安全な校内環境が維持されている。		総合評価 B		